

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101494		
法人名	社会福祉法人見松会		
事業所名	グループホーム華の苑		
所在地	長崎県長崎市中里町1188-1		
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、入居者の暮らしの継続を目指し、入居者の視点に合わせたケアの提供を目指しています。 2、入居者が安心して生活を送れるよう、地域・医療と協力しながらケアを行います。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は田畑や季節の花木が見渡せる自然豊かな環境にあり、入居者の自立した生活と人格の尊重を基盤として支援している。年度目標である“24時間シートの活用”では、本人の意向、生活リズムやできること等、詳細な情報を“好き嫌い表”や生活史をベースに作成し、本人の個性に焦点を当てながら職員間で統一したケアを実践している。また、年度目標には“安全管理の徹底”も掲げており、毎月さまざまな想定による避難訓練の他、今年度大型台風時は入念な計画により入居者全員が法人本部に避難するという実例がある。理念にある「笑」「楽」の生活に沿い、新型コロナ禍の中でも近隣公園の桜見物や散歩の他、職員のアイデアによる菓子作り、室内夏祭り、習字教室等、明るく笑顔で活動できる機会を設けている。入居者と職員と一緒に楽しみ、喜び、日々理念の具現化が見えるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についての施設内研修を開催し、周知・実践に繋げている。	玄関の掲示板や事業所内に理念を掲げ、地域に発信し職員の意識を高めている。年度初めに法人理念をテーマに施設内研修を開催している。理念にある「笑」「楽」の生活に沿い、新型コロナ禍の中でも桜見物や菓子作り、室内夏祭り等、明るく笑顔で活動できる機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流の場が増やせるよう、地域での行事に参加をしている。	職員が地域の清掃活動に参加している他、掲示板に広報誌を貼り地域との交流を広げている。新型コロナ禍によりボランティアによる折り紙教室や地域行事、保育園行事への参加が中止となっている。日頃から散歩などの外出時には、地域住民と挨拶を交わし顔なじみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援の内容については事業所通信の発行や見学等で理解を得ているが、地域の方へ活かす事は殆どできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で、行事の取り組みや・事故の発生状況・研修の報告等を行っている。また会議参加者より意見を頂き、サービス内容の見直しに繋げている。	今年度より新型コロナウイルス感染防止のため、規定通り2ヶ月ごとに書面会議で対応している。運営推進委員へ活動状況報告書を配付し、質問への回答を会議録にまとめ市に提出している。入居者状況や行事の写真、事故・ヒヤリハット報告など詳細な議事録から運営の透明性が窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない点があれば市の担当者へ連絡を取り確認を行っている。	市担当職員に事業所の実情や支援の取組みを積極的に伝え、運営における不明な点を問い合わせ情報を得る等、協力関係を築いている。手続き等で必要時は本部とその都度連携を図っている。昨年9月の台風通過後は、被害状況の確認事項アンケートを市へ提出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を法人内で設置し、委員会・施設内研修の開催を行っている。各職員が身体拘束についての理解ができており、身体拘束をしない環境作りを行っている。	法人本部で身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開き、委員である職員が全職員にフィードバックしている。年2回法人内研修を開催している他、事業所内でも毎月のケア会議において、各職員が「気づきノート」に書き込んだ言葉掛けの問題等を検討しながら理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	不適切なケアがされていないか、日頃のケアをお互いに確認し合い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の権利擁護について学べる機会が持てるよう努めている。また利用者に利用の必要性が生じた場合は、活用ができるよう関係者と連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に同意を得ている。利用者本人・家族より問い合わせがあれば、担当よりその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内に意見箱を設置している。また面会や電話連絡等で意見や要望等を確認している。	運営規定に、入居者・家族の意見には適切に対応する体制を明文化し、意見箱も設置している。家族通信を通して、家族の意見や質問の収集に努めている。今年度は新型コロナ禍のため、家族訪問時に聞く機会が減っている代わりに、電話やメールで家族の思いを聞き取っている。家族の意見はサービス向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア介護を月に1回開催し、運営状況の報告を行っている。また、何かあれば意見交換を行っている。	職員は、年初めにチャレンジシートに個人目標を設定し、管理者が面談を行い職員の意見を汲んでいる。ケア会議の1週間前に、会議のレジュメを職員に配付し、会議の場で意見を述べやすいよう工夫している。ケア会議には、法人部長も参加しており、機械浴の設置や資格取得支援等、職員の意見を基に、職場環境の改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がそれぞれ目標を設定し、達成に向けての取り組みを行っている。また、定期的に面談を実施し、目標達成状況の確認や、業務内容についての確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部研修へ参加をし、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームのイベントに参加をしたり、連絡を取り合い、他事業所と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時や日々の生活の中で、利用者の思いを聞き取り、安心して過ごせる環境が作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やケアプランの更新時・利用者の状態の変化がみられた際は、家族へ説明を行い、意見や要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズに合わせて対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれに合わせて作成されたケアプランを基に、その人らしく生活を送っていただけるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はご家族へ日頃の様子をお伝えしている。また面会が難しい家族の方へも電子メールや電話連絡で状況の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方が面会に来られる事もあり、居室でゆっくり過ごして頂いている。また、定期的に馴染みのある場所への外出も行っている。	契約時に生活歴やできることなどをアセスメントし記録している。新たに取得した情報は追記し、職員間で情報共有している。家族や知人等の訪問や外出は自由であるが、今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から、事業所内での面会を制限している。職員は、手紙や電話等にて馴染みの関係継続が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに合わせた活動を行い、職員や利用者同士の関わりがもてるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係性が築いていけるよう、入居者の退去後の様子等を定期的に伺う機会をもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族へ意向の確認を行い、それぞれに合わせたケアが行えるようにしている。	職員は、入居者が本音を話せるよう信頼関係の構築に努めている。リビングでのさりげない会話や入浴、着替え時の介助等、日々の関わりの中で思いや意向を把握している。失語症の人には身振りや筆談で思いを汲み、本人本位に検討している。得た情報は、職員間で共有し支援に活かし、パン食や日中の過ごし方等、多くの事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にその方の生活歴や嗜好等を聞き取り、ケアに活かしている。また日頃の関わりの中で得た情報も職員内で申し送り、周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議を月に1回開催し、対応の検討や情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族のニーズを把握し、一人一人に合わせたケアプランを作成している。	利用開始から1ヶ月の暫定プランを立て、計画更新時ごとに面会時や電話等で家族の要望を確認している。生活リズムや意向、できることなど詳細な24時間シートを作成しており、新人職員にも分かりやすい内容である。ただし、職員全員が理解し活用するには至っていない。また、ケアプランと介護記録の連動もこれからである。	24時間シートを職員全員が理解し、日常的に活用していくことが望まれる。また、ケアプランの実施状況が分かる記録の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へ様子や気づき等を記入し、必要な申し送りを行うことで、情報の共有・ケアの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族のニーズを把握し、状態に合わせたサービスの提供に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域活動への参加や、近所への散歩等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診にて、かかりつけ医と利用者の状態の確認を行っている。	入居前のかかりつけ医の継続は可能であり、基本的に通院は家族同行としており、都合によっては、職員が同行している。受診結果は報告を受け、記録している。協力医に移行し月2回の往診を受けている入居者もあり、毎日FAXにより体調を報告している。訪問歯科の往診等本人・家族の希望に沿って利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日一回情報報告シートを提出し、利用者の状態や気付き等を申し送っている。また、何かあれば電話連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを作成し情報の提供を行っている。定期的に治療の状況や利用者の状態等を確認し、退院後の対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する方針を定め、ご家族・主治医と情報を共有している。	事業所は、看取りを行わない方針であることを定めている。重度化した場合の指針を、入居時に本人・家族へ説明し同意を得ている。利用継続が困難になった場合は、再度主治医を交えて他施設への入所や医療機関への入院などを説明し、移行について出来る限り協力を行うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に研修を実施し、対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に避難訓練を実施し、状況に合わせた対応がとれるようにしている。	総合訓練は年2回実施し、内1回は消防署が立会っている。毎月の自主訓練では夜間想定や地震による火災訓練、簡易担架による避難などさまざまな想定内容が確認できる。非常持ち出し品、備蓄の整備もある。今年度、大型台風接近により法人本部の高齢者施設に入居者全員の車両配置等計画を立て、避難を行った実例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対して不適切な言葉かけをしていないか、職員間で確認をする機会を設けている。	職員は入居者の尊厳を大切にし、入居者の誇りを傷つけないよう、言葉遣いや接し方に注意を払っている。失禁など羞恥心に触れる場合は、さりげなく声を掛け支援している。個人情報とは所定の場所に管理している他、職員はケース記録や情報共有の際は、守秘義務を理解し徹底している。ただし、写真使用の同意書が未整備である。	家族通信や運営推進会議など、入居者の写真を活用する機会が多く、個人情報保護の観点から、写真等の使用同意書の整備に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がどうしたいか・どう過ごしたいかをその都度確認し、自己決定できるような関わりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの利用者に合わせた暮らしを尊重し、それぞれのペースに合わせて過ごして頂けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服を選んでいただいたり、時には買い物へ行き、おしゃれを楽しんで頂く機械を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者の嗜好を把握し、できるだけそれぞれの利用者に合わせて提供を行っている。また準備や片付け等出来ることは入居者と一緒に行っている。	職員が、旬の食材や郷土料理を取り入れながら献立を作成している。ケア会議で、入居者の嗜好や咀嚼や嚥下状況を確認し、個別の盛付や介助内容を検討している。入居者のリクエストでカップ麺やたこ焼き、朝のパン食を取り入れている。干し柿や手作りおやつ、お節や寿司、行事食など食と一緒に楽しむ工夫が多く見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分の摂取量を把握し、体調の管理を行っている。また状態に合わせた食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に口腔ケアを行っている。		

グループホーム華の苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを確認し、それぞれに合わせてトイレ誘導や尿取りパッドの確認を行っている。	職員は入居者の意思を優先し、トイレでの座位による排泄を支援している。排泄時支援状況は記録し、ケア会議で支援内容を検討している。時間や仕草を見て声を掛けトイレ誘導し、できない部分を介助している。おむつ利用から段階を経て布パンツ利用に至る事例もある。職員は入居者の清潔保持と快適な暮らしを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動への参加をこまめに促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の入浴日や時間帯があればその都度対応を行っている。	シャワーチェアなどの器具の他、今年度リフト浴を設置し、入居者が安心して入浴できる環境を整備している。入居者の体調に配慮し、入浴回数は週2回を目安としており、シャワー浴や足湯も取り入れている。入浴拒否時は、無理強いせず時間や日を改めている。季節湯で特別感を出したり、会話するなど、入浴を楽しむ工夫が窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は安心して休めるよう温度や湿度に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員が確認できる場所に保管し把握に努めている。また服薬マニュアルを作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合わせて家事の手伝いや活動ができるよう声掛けし一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外への散歩を定期的に取り入れている。	今年度は新型コロナ禍にあり、従来の外出支援は実施できなかったが、体調や天候をみながら、感染予防対策し、外出支援を実施している。入居者は、事業所周辺の散歩や近所の公園へのピクニックに出掛け、気分転換している。外出制限時は事業所内で季節行事を実施し、入居者が少しでも外出気分を味わえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が難しくなっても、職員が買い物へ同行し支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや食堂・浴室等、快適に過ごせるよう電球の色や室温等に配慮を行っている。	民家を改築し家庭色豊かな造りである。採光の良いリビングは、田畑やベランダの植木が見渡せ、季節の移ろいを感じられる。キッチンを背にテーブルが並んでおり、入居者が料理の準備や片付けの手伝いを行っている。職員は、穏やかに声を掛けながら、毎日の清掃や換気の他、玄関に花を飾り快適な環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室には馴染みのある物を置いたり、ゆっくりできるソファを置く等設えに工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持ち込んでもらい、居心地のいい空間を作っている。	居室は1階と2階にあり、入居者はエレベーターや手すりを使用し階段で移動している。家族の写真やアルバム、雑誌など馴染みの物を持ち込み、安心できる環境づくりを支援している。自作の折り紙飾りや誕生日プレゼントの袋を大切に飾るなど個性豊かな温かい雰囲気がある。職員は換気や温度調節、清掃を行い、環境整備を担っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置をし出来るだけ安全に移動が出来るようにしている。		